



にしはら

1月号

平成26年1月8日

地域を大切にすること

校長 松田 直樹

あけましておめでとうございませう。平成26年を迎えませう。冬休みは、年末・年始ということうで、多くの子供たちが日本の伝統的な行事を体験したことうと思ひませう。私は冬休みに入る前に2つのことうを子供たちに話した。1つは、家族の一員として家のお手伝ひをすること。そして、もう1つは、1年間の自分の目標(めあて)を決めることうです。子供たちは、この冬休みをどのように過ごしたのでしょうか。私自身もそうですが、年末・年始に家庭で過ごした思ひ出は、いつまでも忘れることうができないことうです。家族だけでなく、親戚の方々とのかかわりも含めて、大切にしたいと思ひませう。

さて、12月21日(土)に西原小学校では、夕方からPTA主催の「火の用心パトロール」がありました。100名近くの子供たちが集まり、その他にも多くの保護者の方々、地域の町会や消防団の方々、渋谷消防署富ヶ谷出張所や代々木警察署の方々も参加し「火の用心パトロール」を実施した。

まず、児童を含めて集まった方々が、8つの班に分かれて子供たちが考えた「かけ声」を体育館で練習し、学校を出発した。子供たちだけでなく、付き添いの大人も拍子木の音を合図に大きな声で「火の用心、・・・・・・・・」とかけ声をかけながら地域をパトロールして学校に帰ってきました。その後、体育館に集まり、豚汁をいただきませう。また、火災等に関するビデオを見て、消防署の方が持ってきた子供用の防火衣を着ることうもしませう。これは、PTA主催の西原小学校独自の活動です。このような活動を通して、私たちは、防災に関しての関心が高まるばかりでなく、自分たちでこの西原の地域を守るという意識も高まり、自分たちの住んでいる地域を大切にしようとすることうも育むことうにつながると思ひませう。是非、このような活動は今後も続けてほしいと思ひませう。

今年度、西原小学校のこのような取り組みも評価され、「平素から消防行政に深い関心を寄せられ、防火思想の普及及び人命安全対策を積極的に推進し、地域の安全安心に寄与されませう」として東京消防庁より感謝状をいただきました。このような活動を実施するに当たり、多くの保護者の皆様、地域の皆様に本当に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

また、阪神大震災のあった1月17日は、渋谷区防災点検の日ということうで、地域の町会を中心とした自主防災組織の方々、PTA、警備員、放課後クラブ指導員等が学校に集まり、避難所運営・施設点検等を行うことうになっています。

このように、地域を主体とした避難所運営体制に基づいて、毎年この日に点検を実施することうになっています。つまり、学校が避難所となったときの運営について地域の方々との打ち合わせや確認を行っていることうです。

このような取り組みに支えられて、この地域に西原小学校は存在しているのだということうを実感します。自分が生まれ育った地域が将来変わることうがあるかもしれませう。しかし、自分が育った地域での人とのかかわりや学んだ多くのことうを忘れることうはありません。西原小学校の子供たちにとって、保護者を主体とするPTAの活動や地域の様々な取り組みに支えられ、このような活動を多く経験することは、子供たちが成長して大人になった時に、自分の住んでいる地域を愛し、地域のために役に立つ活動を支える一人として成長していくことうと思ひませう。これからも、このような活動を通して、地域に生きる子供たちを育むために、学校と保護者と地域が一体となって取り組んでいけるよう努めていきたいと思ひませうので、宜しくお願ひいたします。

「思いやりのある子供たち」 ～～心を込めたあいさつのできる子をめざして～～

生活指導主任 佐藤 満

本校では、年間を通してあいさつ運動に力を入れています。昨年12月には、代表委員会による「あいさつ運動」も行いました。そしてこの1月は、あいさつ強化月間として4週連続であいさつの目標を掲げ、学級でも振り返りを行います。今でも元気にあいさつができる子は多くいますが、全校の子が、心を込めてあいさつできたなら、さらに思いやりのあるすてきな学校になると考え、指導をしていきます。